



大阪部会(第 49 回)

日 時: 2016 年 6 月 25 日(土) 18:00~20:15

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 49 回の大阪部会の出席者は 14 名。

(1)まず、篠原総一代表(京都学園大学)から、野村総合研究所が募集する「学生小論文コンテスト 2016 -世界を変える新たな挑戦-」のお知らせがあった。あわせて、大阪府立大学で開かれる「高校生起業家教育講座」が紹介された。

続いて篠原代表から、東京部会や教材開発など最近の経済教育ネットワークの活動が報告され、東京証券取引所と共催する「夏の経済教室」のスケジュール・内容が確認された。大阪部会出席者の登壇も多く予定されている。野間(同志社大学)からも、5月21日(土)の札幌部会の様子、および中学教科書検討プロジェクトが開始されたことが報告された。

(2)次に山本雅康氏(奈良学園中高)から、数研出版のパンフレット AGORA が紹介された。同紙には、以前大阪部会で山本氏から報告された公共財ゲームの実践報告が、また大塚雅之氏(三国丘高校)の、消費税と年金の制度選択を題材にしたアクティブラーニング実践報告が掲載されている。山本氏からは、高校 2 年生とともに十勝の農家に民泊してきた北海道研修旅行の成果も報告された。生徒たちは、NPOの仲介によって野菜農家、果樹農家、畜産農家などに分かれて宿泊し、その時の体験などを語っている。山本氏は、研修体験を地理学習・農業学習と位置づけるだけでなく、6次産業化や TPPなどをキーワードに経済学習とも組み合わせることを予定している。

(3)河原和之氏(立命館大学等)からは、アメリカの貧困問題・格差問題をテーマとしたジグソー学習の授業例が紹介された。まずアメリカの貧困・格差の現状を簡単に確認した後、クラスを「グローバル化」「少子高齢化」「IT化」「小さな政府」という四つのグループに分ける。各グループでは与えられた観点から、何がどういうルートで貧困や格差につながるのかをまず個人で考えた後グループで議論させる。その後、テーマの異なる生徒を集めてグループを再編し、アメリカで貧困と格差が広がる理由をまとめさせ、最後にグループごとに発表をさせる。このような過程を経ることによって、一つの社会問題(issue)を複眼的にとらえられるようになると期待される。

(4)次いで安野雄一氏(大阪教育大付属平野小学校)から「価値判断・意思決定力を育てる社会科授業」と題する報告があった。18歳選挙権が与えられ、生徒たちの「市民的資質」を早くから育成する必要性が増していることを意識した教育実践である。そのためには、①自ら調べ考える、②友達との意見交換により多角的にながめる、③それをふまえて価値判断・意思決定する、④それに加えて、未来をどうしたいかをそうぞう(想像・創造)させる、という段階を踏む学習が有効である。安野氏は、小学3年生に文楽劇場の問題を、小学5年生に貿易問題を、小学6年生に為政者の選択問題を与えて、意思決定・価値判断に至る授業を実践した。いずれにおいても、生徒たちは経済・財政の問題の重要性を理解し、この秋に財務省、経産省、税務署などとのコラボ授業を予定している。



(5)最後に梶谷真弘氏（茨木市立南中学校）から「徳川吉宗は名君か？－経済の視点を取り入れた歴史学習」と題されたアクティブラーニングの授業実践が報告された。まず吉宗が行った政策を調べ整理する、次に人口の推移や金の産出量変化などの時代背景を幅広くさぐる、その後、同時代の尾張藩主であり、吉宗とは異なる政策をとった徳川宗春との政策を比較する。そして、グループディスカッションを経たうえで、最後に吉宗の政策をいくつかの観点からランキング評価する、という流れになっている。誰もが知る吉宗をテーマに、取り組みやすいアクティブラーニングの例だと思われる。その一方、授業の広がりや深みを増すためには、データや歴史文書を研究した書物等によって、事実関係を広く深く勉強しておく必要があるとの指摘もあった。

（文責 野間敏克）

次回開催予定： 2016年9月24日(土)、時間は18:00～20:00、場所は未定。